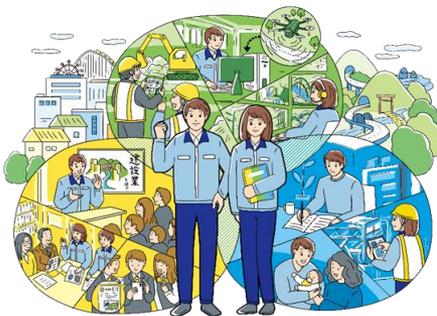


2-3. 「生産性の向上」の効果検証



活性化プラン2024

取組方針3 生産性の向上

担い手確保・生産性向上小委員会 ・ 建設業団体の主な意見

担い手確保小委員会:担い手
生産性向上小委員会:生産性
建設業団体:業団体

- 建設DX促進説明会は、**技術者以外のバックオフィス人材なども対象**としていく必要がある。(生産性)【取組方針①】
- 現場での生産性を向上させるためには、**技術者自身がICT技術を習得することが重要**である。(生産性)【取組方針②】
- ライブカメラの利用など、**施工現場の安全管理に関する事例集**があるとよい。(担い手)【取組方針③】

令和8年度 取組方針(案)

(★) 小委員会・建設業団体の意見を反映

◆ 令和7年度取組を継続して実施する。

- ① **建設DX促進説明会（導入促進）**は、技術者に加えて**バックオフィス人材などの多様な人材を対象に開催**する。(★)
- ② **建設DX講習会（活用促進）**では、ICT技術の習得について、**技術者のニーズが高い内容の講習会を開催し、人材育成をサポート**することでICT活用工事の拡大を図る。(★)
- ③ 新技術による**生産性向上につながる取組事例を紹介するガイドブックの掲載を拡充し、周知**することで、各企業の建設DX活用を促進する。(★)

取組方針 3 生産性の向上

各取組項目における令和8年度の取組方針(案)

取組施策	取組項目	取組目標	R8計画	R8方針(案)
建設DXの導入	建設企業等のDX導入の支援	建設DX促進説明会の参加社数(累計)	900名(累計)	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の取組を継続 ① 促進説明会は、技術者に加えてバックオフィス人材などの多様な人材を対象に開催する。
建設DXの活用	建設DX研修による人材育成	講習会の開催回数	5回/年	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の取組を継続 ② 講習会は技術者のニーズが高い内容で開催し、人材育成をサポートする。
	ICT活用工事の推進	3次元測量データの提供件数	ニーズ対応	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用工事実践企業のニーズに合った支援を検討
	BIM/CIMの活用、支援	BIM/CIM成果の活用工事件数(累計)	15件(累計)	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の取組を継続 ・ BIM/CIM成果の活用工事件数を増やしつつ、好例を積極的に横展開していく。
建設DXの持続的な推進	新技術の活用	活用事例の紹介件数	15件(累計)	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の取組を継続 ③ 新技術などの活用事例の掲載数を増やしていく。

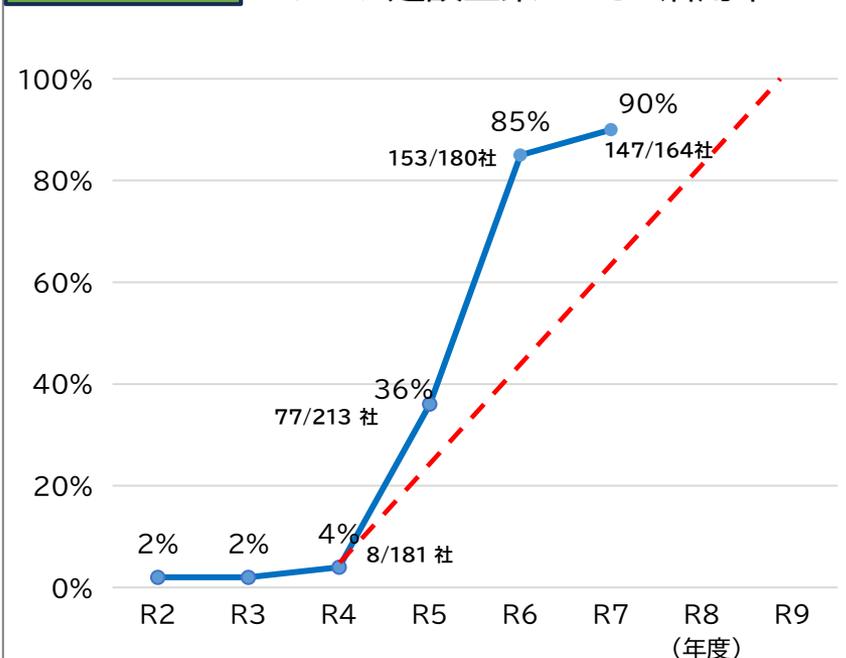


取組方針 3 生産性の向上

取組指標	現状値 (令和4年度)	目標値 令和6年度	目標値 令和7年度	目標値 令和8年度	目標値 令和9年度
Aランク建設企業のASP活用率 (ASPを活用(土木一式Aランク) / 三重県発注工事受注企業(土木一式Aランク))	4% (8社/181社)	30%	50%	80%	100%
	(令和5年度)	(令和6年度)	実績(R7年12月時点)		
	36% (77社/213社)	85% (153社/180社)	90% (147社/164社)		

プラン進捗管理

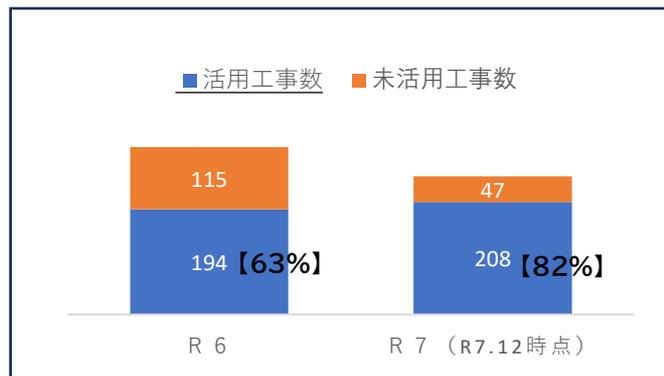
Aランク建設企業のASP活用率



取組指標:「県土整備部調べ」

参考

同じAランク建設企業のASP活用状況を、**工事毎**で見ると



・令和6年度
309工事中
194工事で
ASP活用したが、
115工事で未活用

・令和7年度
255工事中
208工事で
ASP活用したが、
47工事で未活用

動向・傾向

- ASPの活用率について、令和4年度までは低い水準であったが、令和5年度から大幅に増加している。
- ASPを活用したAランク建設企業の中でも、条件等によってはASPを活用していない工事がある。